

『佐賀市教育委員会評価委員会』（第1回）
会 議 録

開催日	令和5年7月7日（金）	
開催時間	午後6時00分～午後7時55分	
開催場所	佐賀市役所 大財別館4-3会議室	
出席者	評価委員	松尾委員長、能勢副委員長、櫻井委員、相浦委員、水町委員
	事務局	中村教育長、堤教育委員、長崎教育委員、 大松教育部長、横田副部長兼教育総務課長、吉次副部長兼学事課長、 大塚副理事兼社会教育課長、古田図書館長、増本図書館副館長、 川副教育総務課副課長 他
議 事	<p>(1) 教育委員会評価</p> <p>(2) 施策評価 「施策2 自ら学ぶ生涯学習の推進」</p> <p>(3) 施策評価 「施策4 家庭・地域・企業等の教育力の向上」</p>	
欠席委員	なし	
傍聴者	なし	
報道関係者	なし	

議事

(1) 教育委員会評価（教育委員会の活動状況）

（教育総務課副課長）

佐賀市教育委員会活動状況点検シートに沿って説明

（委員長）

参考資料 P4「R4 教育委員会委員の活動状況」について、年度途中で教育委員の交代があったのか。

（教育総務課副課長）

ご指摘のとおり、任期満了により 11 月 4 日に教育委員の交代が行われている。

（委員）

「(1) ②教育委員としての役割」の「令和 5 年度に向けた課題と改善点」について、教育現場の実情や課把握のため、教職員、地域住民、専門家に加えて、子ども・若者の話を積極的に聞くと記載されている。教育サービスを受ける側の声を聴くことは重要なことであり、教育サービス提供における質の向上につながるため評価したいと考えるが、どのような方法で聴くつもりなのか。

（教育長）

いろいろな意見を聞くことで課題解決の手立てにしていきたいと考えている。

例えば、「えがおわくわく学校訪問」では、幼稚園、保育園の先生に新 1 年生の授業を参観してもらい、学校現場と保育園、幼稚園の先生との意見交換の機会としている。

また、令和 5 年度の取組みになるが、大規模改修を控えている佐賀市立図書館の将来像について高校生と意見交換を行い、高校生から市長へプレゼンしてもらった。若者特有の素晴らしい視点で提言してもらい、感謝している。

今秋には、ユニセフと連携して、中学生と高校生が佐賀市の未来について考え、提言してもらう場を作ることを予定している。

このように、これまで保護者、教職員、専門家に意見を聞くことが多かったが、子どもたちや若者の意見を聞く手立てを作っていきたいと考えている。

（教育委員）

教育委員として、若者の意見を聞くことが課題と考えている。学校訪問では授業中のため子どもに直接話を聞くことができないが、フリー参観などの機会に子どもの意見を聞き、教育行政に還元したいと考えている。

（委員）

「(1) ①教育委員会会議運営の充実」において、委員提案の議題件数が少数に留まっていることが課題に挙げられているが、「(2) ④教育委員としての資質向上」では、会議の質

の向上に向けて、自己研鑽や、委員同士での情報共有、意見交換が積極的に行われ、現場への意見聴取もしっかり取り組まれているように感じる。委員の教育課題への理解が深まっているのであれば、委員提案の議題が少数であることは懸念事項にはならないのではないか。

また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、学校現場は混乱しているのではないかと考えている。行事のあり方など様々な声をどうまとめていくのか苦慮していると思う。教育委員としてどのような課題が出てきていると感じているか。

(教育委員)

研修会の委員提案が多ければ良い訳ではないと考えている。教育委員間で自主勉強会を行っているが、自主勉強会でしっかり意見交換ができているから、提案課題が減っている側面もあるかもしれない。

新型コロナウイルス感染症の5類移行後、登校停止等が緩和され、学校で蔓延させないことに現場は気を遣っていると感じる。蔓延防止については、学校だけでなく、家庭でも気にかけてほしいし、学校へしっかり情報提供してもらえれば、子どもの様子に配慮できると思う。家庭に働きかけることで蔓延を抑えられるのではないか。

(委員)

コロナによる自粛が続き、本来その学年で経験していたことが経験できない状況が続いてきた。この点を話題にしたことはないか。

(教育長)

令和4年度は、何でも自粛するのではなく、できることをやっていこうという考え方で進めた。子どもにとっては、その学年は1回限りであり、特に小学6年生や中学3年生には、最後の思い出づくりの時期である。修学旅行なども時期や場所を工夫するなど、感染対策をしっかり行いながら実施しようと学校現場にも伝え、ほとんど中止にすることなく行事が実施できたと考えている。

(委員)

「(2) ③事務局との連携」の「令和5年度に向けた課題と改善点」について、事務局との情報共有を深め、緊密な連携を図ると記載されているが、「令和4年度の実績」でも、遅滞なく適切に報告が行われたようである。どのような点を課題と感じているのか。

また「(2) ②市長部局や関係機関との連携」について、「子育てを重点施策に掲げている市長」との記載があるが、あえてこのように記載した意図は何か。

(教育総務課副課長)

事務局との情報連携は適切に行うことができているが、令和5年度も引き続き連携を強化したいと考えている。例えば、これまでは情報伝達手段として、教育委員個人のPCメールや電話を使用していたが、令和4年秋から教育委員にタブレットを携帯してもらい、タブ

レットで連絡する体制構築を行った。このように、引き続き連携強化に努めていきたい。

「子育てを重点施策に掲げている市長」の記載については、市長自身が子育て世代であり、市長公約でも子育てが重点施策に掲げられていることから、市長部局と教育行政の連携を強化していきたいとの意図で記載している。

(委員長)

子どもや若者の声を聴き、その声を教育行政に生かすことに期待している。

主権者教育の重要性が叫ばれているが、これまでそのような場面を学校現場が作ってこなかったのではと感じている。もっと子どもたちが意見を述べる場面を作っていくべきであり、図書館改修への意見聴取や子どもサミットなど、子どもたちの意見を聞こうとする姿勢は素晴らしいと思う。令和5年度の活動に期待したい。

教育委員が自主勉強会を行っていることを初めて知った。総合教育会議でも教育委員が的確な意見を述べられているなど議事録を読みながら感じていた。引き続き、平時の情報交換を大事にしてほしい。

学校現場は課題が多いが、一番は人手不足だ。様々な施策に取り組もうとしても、必要なところに人が充てられない難しさがあると思う。

中堅の教職員は学校現場で大きなストレスを抱えていると思う。中堅教職員と教育長が語り合う会は、とても良い取り組みであると感じた。

教育委員には、学校訪問の際に、学校現場の課題について率直に意見を聞き、教職員の意見を積極的に取り入れるよう心掛けてほしい。

タブレットの導入など、教育委員と事務局の連携をなお一層深めてほしい。

これまでの説明や質疑応答を聞いて、「令和5年度に向けた課題と改善点」として挙げられている内容は、いずれも的確であると感じた。教育委員会として、ここに掲げられている項目を着実に進めていかれば良いのではないかと思う。

議事

(2) 施策評価 施策2：自ら学ぶ生涯学習の推進

(図書館長)

施策2：自ら学ぶ生涯学習の推進（施策シート）に沿って説明

(委員)

将来にわたって続く読書習慣を子どもに身に付けてほしいと思っている。図書館を利用したいが、直接足を運ぶことができない事情がある人への手立てはあるか。

(図書館長)

令和5年度に電子図書館の試験導入を行うことにしている。出版社が発行している電子図書の権利を購入し、図書館利用カードがあれば、来館せずとも電子図書を利用できるようになる。

子どもにも活用してもらうため、学校の1人1台タブレットから電子図書を利用できるようにしている。

(委員)

学校図書館が利用できない不登校の子どもや、保護者が図書館へ連れていけない家庭の子どももいる。保護者が自宅で子どもへ声掛けして親子で本を読む環境づくりができればよいと思う。

視覚障がい者向けの点字図書はあるか。本を点字にするボランティアなどがいれば、障がいがある人が本に出会う機会を提供できるのではないか。

図書館の大規模改修に当たっては、行政が考えつかないような高校生のユニークな意見を改修計画に盛り込みながら進めてほしい。

(図書館長)

点字図書については、館内にコーナーを設けている。ハンディキャップサービスも行っており、希望に応じて読み聞かせなどを行っている。

大規模改修における高校生の意見聴取については、突飛な意見が出るのではないかとの懸念を持っていたが、実際に市長へのプレゼンを聞いていると、現在の図書館の課題解決につながる意見が盛り込まれていると感じた。例えば、今まで図書館に関心がなかった層に働きかけるようなイベント開催や、改修コンセプトの1つである「五感で感じる図書館」というキャッチコピーを踏まえ、県産材使用やくつろげる椅子の設置などの提案があった。

(委員長)

2つの重点事業の自己評価が「概ね達成」であること、成果指標が前年度と比較して上昇していることを踏まえ、評価は「概ね達成」で良いのではないかと思うが、よろしいか。

(委員)

成果指標のうち、市立公民館利用者数のみ実数となっているが、今後の人口減少を踏まえれば、この指標設定では誤った判断をしてしまうことが懸念される。パーセンテージを使った指標の設定を検討してほしい。

(委員長)

その点について事務局で検討していただきたい。評価については「概ね達成」でまとめることにしたい。

議事

(3) 施策評価 施策4：家庭・地域・企業等の教育力の向上

(社会教育課長)

施策4：家庭・地域・企業等の教育力の向上（施策シート）に沿って説明

(委員長)

昨年度の評価委員会の指摘を受けて、子どもを対象とした成果指標が取り入れられている。地域のイベントや行事などの活動を楽しんでいる子どもの割合が大きいことは素晴らしいと感じた。

(委員)

「佐賀が好きと答えた新成人」の割合が非常に高いことは良いことだと思う。

(委員)

「地域の方は子どもたちの教育に自主的に関わっていると思う保護者」の割合も高い。親も子ども地域行事を支持していることが読み取れ、非常に良いと思う。

(委員)

「地域の方は子どもたちの教育に自主的に関わっていると思う市民」の割合だけが下がっている。やっている取組は機能しており効果を発揮しているが、あとは市民への波及が課題だ。

(委員長)

2つの重点事業の評価が「概ね達成」になっていることや、成果指標を踏まえて、施策4の評価については「概ね達成」でよろしいか。

(「良い」と叫ぶ者あり)

(委員長)

「子どもへのまなざし運動」の認知度向上が課題との説明があったが、総合教育会議のテーマに取り上げていることは良いことだと思う。予算獲得も含めて、市長部局も取り込みながら進めていくことで、「概ね達成」という現状から更なる進展につながるのではないかと思うので、今後も取組を進めていってほしい。

(閉会)